



平和のこと



語り部活動への想い

今から80年前の1945年8月、広島と長崎に原子爆弾が落とされました。今年は被爆・戦後80年目の年になります。今回、国民学校の時に太平洋戦争を経験され、現在も語り部活動を続けておられる組合員の小山ヤエ子さん(90歳)に平和についての想いをお聞きました。8月号では『小山さんの戦争体験』、9月号で『語り部活動への想い』を紹介します。

あたらしい憲法

新制中学1年生の時に文部省から教科書として発行された『あたらしい憲法のはなし(現日本国憲法)』を学び、そこで価値観が180度変わりました。日本国憲法第9条の「ふたたび戦争をしません、武器を持ちません」ということを教えられた初めての世代です。私の中では、幼い頃からの戦争体験と新制中学での教育、このふたつが一緒になって結びつきました。どっちが欠けていても今、語り部はしていません。「怖かった」「ひもじかった」だけではすまない、国の在り方と結びついたから、この年になっても語り部を続けています。

「戦争ってほんとうに怖くて、ひもじくて…」だけではない

生活が大変だったというのはベースになっているのですが、「怖かった」「ひもじかった」という経験や爆弾が落ちてきたり、機銃掃射を受けた恐怖だけだったなら、ここまで熱は入りません。体験したあとに、戦争の本質を学び「理不尽やな、戦争ってなんだったんやろう」っていう怒りを感じました。

物心ついてから終戦まで、「ひもじかった、飴玉ひとつ食べられなかった、防空頭巾を被りながら機銃掃射も受けた」そのことの意味が『あたらしい憲法のはなし』の授業を通してわかったんです。怖かっただけじゃなくて。

語り部の想い

今、みんなが当たり前だと思っている日本国憲法『第9条戦争放棄』が、どういう悲惨なことの後にできたのか。日本の基本になっている日本国憲法はこ



ういう歴史の中からうまれたんだと知ってほしいんです。今、その日本国憲法が揺らいでいる、おかしくなりつつあります。

そのことに戦争を体験してきた私たちは、ものすごい怒りを感じています。だからつつい喋っていたら熱が入るし、「ふたたび戦争をしません」と、日本が誓ったことを後世に伝えておかなあかんと思っています。

今、世界で、イスラエルとパレスチナの紛争など戦火があちこちで起こっています。子どもが苦しんでいます。「なんでやの?」って思います。第三次世界大戦が起ころんといてほしい、再び戦争をしてほしくないという強い想いがあるから、語り部を続けています。

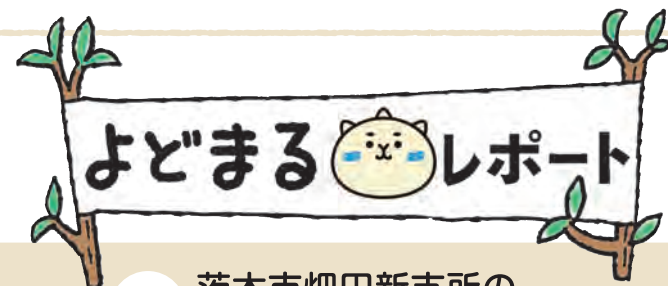
語り部の話せる場がどんどんなくなって…

わたしは学校で語り部をさせてもらっていますが、語り部の回数が極端に減っています。反戦につながる内容を見させない、聞かせない、授業でふれない、反戦の教育がほぼここ2～3年で極端に変わりましたね。昔は、8月6日の原爆が落された日に、平和登校日というのがあって、運動場で10分でも私の戦争体験の話をさせてもらえたんです。今は、まったくなくてすよ。だからちょっとでも戦争の怖さ、組合員の中にこういう体験者がいる事実を生活協同組合として取り上げてくれるのは嬉しいんです。ほんとにね、話せる場がなくなってきていると感じています。

みんなと一緒に考えたい

憲法第9条をもつ日本がすこしづつ戦争に協力する道を歩み始めている。どうしてなのか。その理由を私の戦争体験を通して、みんなと一緒に考えたいです。また、私の戦争体験を聞いてもらうだけに留まらず、みんなに私の話を通じて、今とこれからの日本が戦争をしない未来をつくりあげる力にしてほしいです。

11ページのおたより欄にて感想をお待ちしています。



036

茨木市畑田新支所の開設準備状況報告

機関紙よどがわ2月号で『茨木市畑田新支所開設に向けて準備を進めています』を掲載しました。その後の経過をお知らせします。

すべての人が働きやすい環境に

2025年4月より工事を始めており、着々と新支所の建築が進んでいます。各支所で働く職員の意見を聞き、内装について現在も様々な案をもとに検討を進め

ています。

職員からの意見をもとに決定した内装の一つはエレベーターの設置です。今までの支所は荷物用エレベーターのみでしたが、乗用エレベーターを設置することで、すべての人が働きやすい支所をめざしています。



※外装の色は変更の可能性があります

新支所の完成は2026年春を予定しています

これからもずっと応援！

よどまる応援基金報告⑦

「よどまる応援基金」収支報告(単位:円)(期間:2025/5/21~2025/7/20)

6・7月 度	収入の部		支出の部	
	項目	実績(円)	項目	実績(円)
	前回繰越金	467,136	食材購入代(6・7月度)	24,168
	募金(6・7月度)	376,400	次回繰越金	819,368
	合計	843,536		

お米の代わりに主食となる食材(乾麺など)を提供しています

よどがわ市民生協は、こども食堂やシングルマザー支援団体などを支援する目的で食材を提供しています。機関紙よどがわ7月号でお知らせしましたように、昨今の米不足の影響を受け、各団体へのお米の提供を一時中止しています。そこで、組合員から寄せられた『よどまる応援基金』を主食となる代替食材の購入にあて、提供を開始しました。代替食材として、乾麺(パスタ・うどん・そば・そうめん)・小麦粉から、各団体に必要食材を選んでいただきました。お米の流通量が回復次第、提供を再開する予定です。



よどがわ生協さんから「お米の提供ができないので、よどまる応援基金を使って代替食材を提供します!」と提案いただき、とても温かい気持ちになりました。今回は、ざるそばをみんなに食べてもらおうと思います。

毎月食材提供をしていただき、資金難の時も何とか運営を継続することができました。今後も子ども食堂の活動へ応援をお願いいたします。

『佃子ども食堂(西淀川区)』代表 藤田さん



よどがわ市民生協では、今後も地域団体の活動を支えていきたいと考えています。
『よどまる応援基金』にご協力をお願いいたします!



毎週受付中〜♪

●よどまる応援基金のご案内●

子ども食堂などへ安定的に食材を提供するため募金にご協力ください。
※この募金は所得税の寄付金控除の対象となりません。

募金方法 注文書の4ケタ・6ケタ注文欄「001419」に個数(1=100円)を記入。インターネット注文『eフレンズ』でも募金できます。

